

- 当県は、牛群検定参加農家の割合が70%で全国で上位に位置するが、**検定結果を自ら経営改善に活かしている酪農家は少ない。**
- 家畜改良事業団が開発した検定結果を、効果的に反映する**繁殖台帳Webシステムを活用して経営改善を実践するモデル農家を育成し**、経営改善に結びつくシステムの活用手法や取組事例を整理した**手引書を作成した。**
- その結果、**モデル農家が30戸育成**され、牛検実施農家における**システム利用希望者が43%から約60%に増加し**、**アクセス数も次第に増えている。**

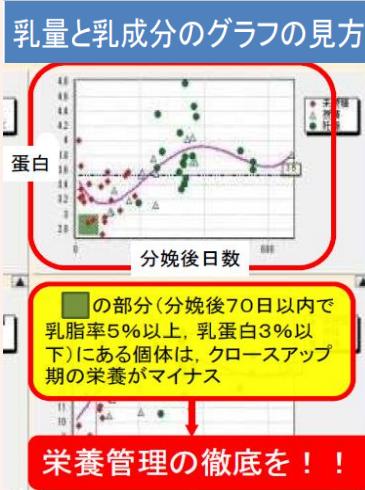
具体的な成果

1 繁殖台帳Webシステム活用モデル農家の育成支援と支援体制の整備

- モデル農家を5地域で3年間で30戸に経営改善支援を展開・継続指導
H27年：9戸→H28年：15戸→H29年：30戸
- モデル農家の**支援体制を整備**、効率的に経営改善支援を実践
- モデル農家のデータの見える化による**改善意欲の向上**

2 システムを活用した経営改善手法の検討と評価

- 3年間の取組を基に繁殖成績や乳量乳質改善に関する**システム活用のポイント**や**改善取組事例を整理した手引書の作成**



3 システム利用農家の拡大と認知度アップ

- 研修会等の開催
H28：7回67名参加，H29：6回45名参加
- 利用希望者及び利用回数の増加**
利用希望者 H27年43%→H29年約60%
年間アクセス回数(当県分)

H27 H28 H29
2,611回 → 3,131回 → 3,133回

普及指導員の活動

平成27年度

- 5地域で**9戸のモデル農家を設置**
- モデル農家の**経営改善を支援**
- アンケート調査による**システムの認知度と活用ニーズの把握**

平成28年度

- 新たに6戸のモデル農家を選定し、継続農家と併せて**15戸の経営改善を支援**
- 各地域でシステム**活用拡大の研修会を開催**し、これまでの成果・取組事例を紹介
- 指導員の技術指導力向上研修**の実施

平成29年度

- 30戸のモデル農家の**経営改善支援**
- 農家と指導者が利用する**手引書の作成**
- システム**活用推進研修会等**の開催
- アンケート調査に基づく**取組の評価**

普及指導員だからできたこと

- ・農家の技術分析ツールとしてシステムを活用し、データの見える化効果を駆使して**農家に気づきを促し、経営改善意欲を引き出した。**
- ・**コーディネート機能**を活かし、関係機関の役割分担を明確にして支援体制を整備した。
- ・農業革新支援専門員がチーフとなったことで、全体の進行管理や県酪農協指導員も含めたスキルアップ研修の企画ができ、手引書の作成等を通して成果波及につながった。

鹿児島県

繁殖台帳Webシステムを活用した酪農家の 経営改善手法の検討とシステムの利用拡大

活動期間：平成 27～29 年度

1 取組の背景

当県は、牛群検定（以下、牛検という）参加農家の割合が70%以上と全国でも上位に位置するが、検定結果を自ら経営改善に活かしている酪農家は少なく、家畜改良事業団が開発した検定結果を効果的に反映する繁殖台帳Webシステム（以下、システムという）の活用度も低かった。

そこで、県酪農業協同組合及び県内5地域の普及組織が地域の関係機関と一体となって、システムを活用して経営改善を実践するモデル農家を支援し、かつ、その改善手法や効果を波及することで、モデル農家育成とシステムの利用拡大を図ることとした。

2 活動内容（詳細）

(1) モデル農家の設置

県下5地域でシステムに関心がある経営改善意欲の高い農家をモデル農家に選定し、システムを活用して、課題の明確化や、改善目標の設定を行うなど、実証を行った。

モデル農家数(累計) H27年度：9戸→H28年度：15戸→H30年度：30戸

(2) 経営改善支援

各地域では、図1の支援体制で月1回を目標に関係機関と合同でモデル農家巡回を実施し、システムのデータを見ながら、改善状況の確認や新たな課題及び改善方を検討した。指導内容としては、飼料設計に起因する改善対策が多く、飼料メーカー担当者と獣医師との連携がポイントと思われた。普及指導員は、情報共有を図り、検討会ではコーディネイト機能を果たすことを心がけた。

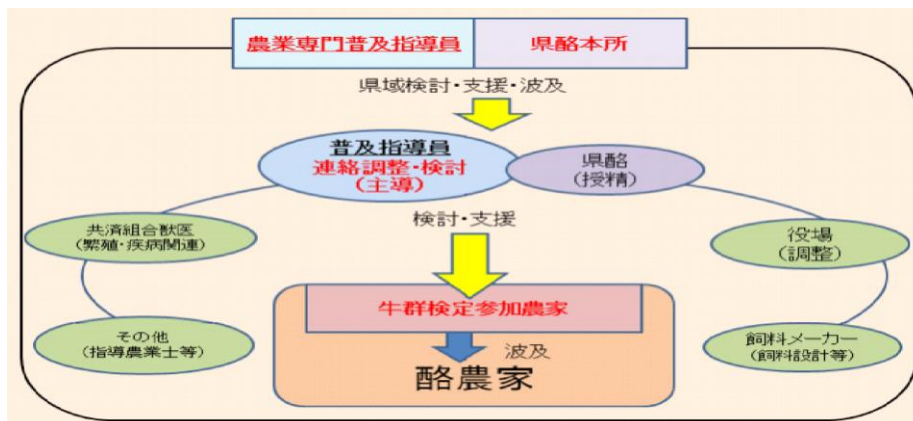


図1 指導体制図

(3) 関係普及指導員の技術指導力向上研修の実施

モデル農家の改善指導状況等を関係普及指導員が確認し、併せて飼料設計の考え方を飼料メーカー担当者、また、各種スコアリング手法については畜産試験場職員を講師として現地研修を行い、関係普及指導員の資質向上を図った。

(4) システム利用手引書の作成

モデル農家から、「システムのデータが多いので、どのデータを利用すれば良いのかわからない」との意見があった。そのため、繁殖部門、乳量乳質部門の改善指導で利用頻度の高いグラフ機能や、その改善取組事例を整理した手引書を作成し、農家の要望に対応した。農家だけでなく経験の浅い関係普及指導員が指導方法を理解する内容になるように検討を重ねた。

(5) システム活用推進研修の開催

システム利用拡大に向け、県牛検組合(事務局：県酪農業協同組合)主催あるいは各地域で行われる集合研修において、システムを活用した事例紹介やシステム操作の実演を行うなど成果波及とシステム利用推進を図った。

研修回数・参加農家数 H28年度：7回67名、H29年度：6回45名

3 具体的な成果（詳細）

(1) 経営改善手法の検討と評価

ア 支援体制の整備とモデル農家の拡大及び経営改善実績

3年間で30戸のモデル農家を育成する目標は達成し、地域毎に支援体制が整備された。データの見える化により、課題の発見が容易になり、自らシステムを利用してデータのチェックや具体的な改善策を実践する農家が見られるようになった。それぞれの課題の改善状況を改善率で見ると、29年度は52%であった(表1)。

イ 手引書の作成による改善手法の整理と取組の評価

3年間の取組を基に、モデル農家の主要な改善項目である繁殖成績及び乳量乳質の改善指導に関するシステムの活用ポイントを整理した手引書(写真1)を作成し、県牛検組合を通じて実施農家全戸に配布した。

表1 29年度の改善項目の達成状況

改善項目	取組件数	達成状況(件数)			
		◎	○	×	-
A(受胎関係)	22	5	6	10	1
B(乳量関係)	25	9	5	10	1
C(乳成分)	10	1	3	6	0
D(その他)	1	0	1	0	0
全体合計	58	15	15	26	2
割合(%)	100	26	26	45	3

現状からの改善率：52%

A(受胎関係)：初回発情、空胎日数、分娩間隔、授精回数

B(乳量関係)：乳量(経産牛1頭当り)、日搾乳量

C(乳成分)：体細胞

D(その他)：増頭

乳量と乳成分のグラフの見方

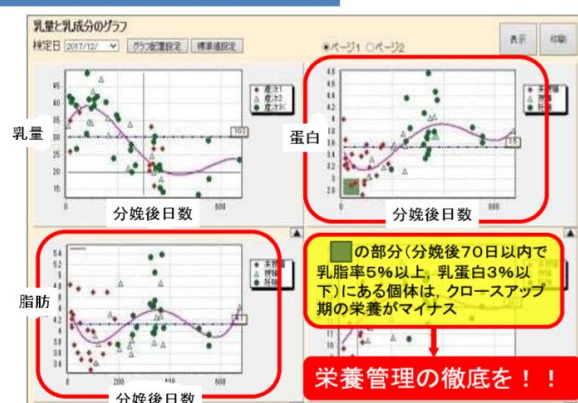


写真1 手引書の一部

(2) 利用希望農家の拡大と認知度アップ

3年間の取組後に、牛検実施農家に対して、システム利用に関するアンケート調査を行ったところ、平成27年調査時は43%だった利用希望者が、29年には約60%に増加した。また、システムへのアクセス数も、毎年、次第に増えている（表2）。

表2 本県のWebシステムアクセス数の推移

年度	H27	H28	H29
アクセス数(回)	2,611	3,131	3,133
H27 対比(%)	100	120	120

資料：家畜改良事業団

4 農家等からの評価・コメント（鹿児島県酪協 栗野幸一郎）

普及指導員と県酪農協指導員が連携してモデル農家支援を行ったことでシステム利用が定着し、農家の牛検結果を活用することで、経営改善指導の強化が図られた。作成した手引書については、システムを開発した家畜改良事業団からも高い評価を受けている。

5 普及指導員のコメント

（農業開発総合センター企画調整部普及情報課 農業専門普及指導員 福元和宏）

システムの活用により、普及指導員自身も農家の課題に対する要因分析力が向上した。5地域合同で取り組んだことで、システムの活用や経営改善手法に関する情報交換等ができ、農家が活用しやすい手引書の作成ができた。

また、各地域での支援体制の構築に関しては、普及指導員のコーディネーター機能が発揮できた取組である。

6 現状・今後の展開等

システムの利用推進については、手引書を活用してさらに利用推進を図る。また、授精記録や診療記録などの関係機関が所有するシステムとの統合などが可能となれば、システムの利用件数やデータの精度が向上するとともに、農家と関係機関相互の業務の効率化につながると思われるので、今後、システム自体の改良について家畜改良事業団に提案したい。